

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の名称

水と緑の快適環境のまちづくり計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

佐賀県杵島郡江北町

3 地域再生計画の区域

佐賀県杵島郡江北町の全域

4 地域再生計画の目標

(1) 背景

江北町は、佐賀県のほぼ中央部に位置し、人口 9,722 人（平成 20 年 4 月 1 日現在）、東経 130.8 度～130.12 度、北緯 33.11 度～33.15 度にあり、北に多久市、南に白石町、西に大町町、東に小城市に接しています。町の中央部には御獄山がせり出してきており、これが町のシンボルともなっています。この御岳山の麓に町の中心街が形成されており、東西 5.6km、南北 7.2km で行政区面積は 24.48 km²となっている。町の東側を牛津川が、南側には六角川が蛇行しながらゆっくりと流れており、これらによりもたらされた肥沃な土地によって農業が発達し、県下有数の穀倉地帯となっている。また、国道 34 号線が町の中央部を走り、J R 長崎本線と佐世保線に分岐するところに位置しており、古くから交通の要衝として立地条件に恵まれている。

本町は以前炭鉱の町として栄え、町全体が賑わいをみせておりましたが、昭和 44 年の杵島炭鉱閉山に伴い人口は激減し、過疎化が進むという深刻な状況にありました。その後、昭和 56 年に国道 34 号江北バイパスの一部開通、平成 7 年には、六角川を跨ぎ隣接町（白石町）とに新渡大橋が新設され、平成 11 年には江北バイパスが全面開通しました。更に佐賀空港へのアクセス道路として県道江北芦刈線が着工するなど、この間の道路網の整備に伴い、バイパス沿いには大型商業施設が建ち並び、その背後地には民間企業による住宅地の開発も進み、また、J R 長崎本線・佐世保線に分岐点である肥前山口駅を有しており、駅周辺の開発の進展などにより、人口、世帯数が増加傾向である。

近年、生活環境の多様化により各家庭より排水される未処理の生活雑排水等の流入により河川、農業用水路等の汚濁が進んでおり、農作物への影

響が懸念されている。

このような状況のなか、生活環境の改善及び公共用水域の水質汚濁の防止を図るため、平成7年度より農業地域で農業集落排水事業、その他町全域を平成7年12月に公共下水道全体計画を策定し、平成7年度に第1期地区事業認可（96ha）を受け、公共下水道の整備完了目標を平成27年度と定め整備を進め、平成14年度に93haの整備と処理場1期分が完成し、平成15年3月25日より供用開始を行った。さらに、平成15年度に第2期地区（68ha）の事業計画認可変更申請、平成19年度に第3期地区（79ha）の事業計画認可変更申請の面拡大を行い、事業進捗を図っている。

(2) 意義

江北町は、水と緑の保全を計画的に推進するとともに居住環境の整備、公園・緑地・水辺の整備、上下水道の整備などを包括的に実施している。このため水と緑の自然環境や歴史環境等を生かし、人の心にうるおいとやすらぎを与える美しい環境を維持し、次代に残すため環境保全意識の高揚を図るとともに景観づくりや環境美化運動などの地域活動を支援し、その普及・拡大につとめることにより、快適な環境の町として再生できることを考えている。

(3) 目標

江北町は、平成12年12月に「第4次江北町総合計画」で「みんなで取り組む『住民主役のまちづくり』の推進」、「人と自然が共生する『環境と人にやさしいまちづくり』の推進」、「広域交通拠点に位置する優位性を生かした『広域交通拠点のまちづくり』の推進」として揚げた新しいまちづくりの基本戦略を踏まえ、町の自然と歴史、社会的特性を生かした個性豊かな地域づくりを図ることを目的として、まちの将来像を『人とみどりが輝くふれあい交流拠点の町 江北』を提唱している。

その実現をはかるため、次の6つの基本施策「住民主役のまちづくり」、「人にやさしい健康福祉のまちづくり」、「ふれあい豊かなスポーツ活動と文化創造のまちづくり」、「水と緑の快適環境のまちづくり」、「安全で利便性の高いまちづくり」、「活力ある産業のまちづくり」を定め住民と行政が一体となった新しいまちづくりに邁進している。

このようなまちづくりを行うためには、地域住民の良好な生活環境の創出に重要な施設である下水道は、健康で快適な生活環境の確保と公共用水域の水質保全を図るために不可欠な施設となっている。

このように、水と緑の快適な環境のまちを再生させるためには、生活環

境の改善、公共用水域の保全を行う「污水处理施設整備交付金」の支援措置を活用し地域住民が住み良いまちづくりを行いたいと考えている。

このため、改善及び公共用水域の水質保全のため污水处理人口普及率の向上を次のように設定します。

(目標 1) 【平成 20 年 3 月 31 日現在】

污水处理人口普及率 67% (江北町全域)

【平成 25 年度末目標値】

污水处理人口普及率 90% (江北町全域)

(5 年間に污水处理人口普及率を 23 ポイント向上させる。)

(目標 2) 現況の BOD 汚濁負荷量 : 194.9kg/日に対して、整備後の BOD 汚濁負荷量 : 107.4kg/日となり、87.5kg/日の BOD 汚濁負荷量を削減します。

5 目標を達成するために行う事業

5-1 全体の概要

本町は平成 7 年 12 月に公共下水道全体計画を策定し、江北町特定環境保全公共下水道(第 1 期地区 96ha)の事業計画について、下水道法(昭和 33 年法律第 79 号)第 4 条第 1 項の規定により平成 8 年 1 月 17 日付けで認可を受け、平成 14 年度に 93ha の面整備と終末処理場 1 期分が完成し、平成 15 年 3 月 25 日より供用開始を行った。さらに、第 2 期地区(68ha)の特定環境保全公共下水道事業計画(変更)について、平成 15 年 12 月 8 日付けで認可、第 3 期地区(79ha)の特定環境保全公共下水道事業計画(変更)について、平成 19 年 12 月 25 日付けで認可を受け、環境保全及び住民生活向上のため事業推進を図っている。

また、平成 19 年度に佐賀県污水处理整備構想の見直しを行い、特定環境保全公共下水道事業認可区域及び農業集落排水処理施設整備事業採択区域以外の区域については、浄化槽市町村整備推進事業(市町村設置型)、浄化槽設置整備事業(個人設置型)により整備を行い、污水处理普及人口の拡大を図る。

5-2 法第 5 章の特別の措置を適用して行う事業

污水处理施設整備交付金を活用する事業

対象となる事業は、以下のとおり事業開始に係る手続き等は了している。なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

・特定環境保全公共下水道・・・・平成 19 年 12 月に事業変更認可

[事業主体]

- ・ いずれも江北町

[施設の種類]

- ・ 特定環境保全公共下水道、浄化槽（市町村設置型、個人設置型）

[事業区域]

- ・ 特定環境保全公共下水道 江北処理区（山口、上小田、下小田、八町地区）
- ・ 浄化槽（市町村設置型） 江北町山口、上小田、下小田地区
- ・ 浄化槽（個人設置型） 江北町全域（ただし、江北町特定環境保全公共下水道事業認可区域、農業集落排水処理施設整備事業採択区域（佐留志地区）、浄化槽市町村整備推進事業区域を除く。）

[事業期間]

特定環境保全公共下水道	平成 2 1 年度～平成 2 5 年度
浄化槽（市町村設置型）	平成 2 1 年度～平成 2 5 年度
浄化槽（個人設置型）	平成 2 1 年度～平成 2 5 年度

[整備量]

- ・ 特定環境保全公共下水道 $\phi 75 \sim 250$ 28,870m
（単独事業 $\phi 150$ 1,830m）
処理場 1 カ所
- ・ 浄化槽 98 基

なお、各施設による新規の処理人口は下記の通り。

特定環境保全公共下水道 江北処理区（山口、上小田、下小田、八町地区） 2,800 人、
浄化槽（市町村設置型） 江北町山口、上小田、下小田地区 321 人、浄化槽（個人設置型） 江北町全域（ただし、江北町特定環境保全公共下水道事業認可区域、農業集落排水処理施設整備事業採択区域（佐留志地区）、浄化槽市町村整備推進事業区域を除く。）
62 人

[事業費]

特定環境保全公共下水道	事業費	2,775,000 千円
	（うち、交付金	1,433,500 千円）
	単独事業費	105,000 千円
浄化槽（市町村設置型）	事業費	90,941 千円
	（うち、交付金	30,313 千円）
	単独事業費	17,530 千円

浄化槽（個人設置型）	事業費	6,632 千円
	（うち、交付金	2,210 千円）
合計	事業費	2,872,573 千円
	（うち、交付金	1,466,023 千円）
	単独事業費	122,530 千円

5－3 その他の事業

該当無し

6 計画期間

平成21年度～平成25年度の5年間

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

4に示す地域再生計画の目標については、汚水処理人口普及率は、江北町の人口に対して、汚水処理施設の利用が可能な人口をもって定量的な数値が算出されるため、客観的な目標達成の評価が可能である。よって、平成26年度に江北町が整備完了時点での汚水処理人口普及率により達成状況の評価、改善すべき事項の検討等を行うこととする。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし